

めざすは……地域学校

就任されて1年（一昨年の12月16日就任）という文成小学校の西島校長先生を訪問して、小学校教育の姿勢や地域への思いをお伺いしました。

地域学校

西島先生は、ここでは就任してまだ1年なので、文成小と地域とのかかわりについては教頭先生やほかの教員の方が詳しくと前置きしながら、教育者としての抱負や希望、夢について熱っぽくお話ししてくださいました。

先生は、公立の小学校は「地域学校」でもあるとおっしゃいます。学校と地域が密接に関わりを持ち、子供たちはその中で育てられているというのが、公立学校たる個性であり、すばらしさでもあります。そうでなければならないというご意見です。実際に、お父さんやお母さん、おじいさんやおばあさん、近所のおじさん、おばさんが学んだ学校で育てられている子が多いからです。一般的には子供たちの地域での活動が失われていると言われている中で、『特に池袋本町地域では、子供たちはその中で育てられ、守られていると思う』そうです。

さまざまな行事に参加しながら

先生は、就任以来、土・日曜でも、お祭りなど地域のみなさんが子供たちのために取り組んでくださるさまざまな行事に積極的に参加されています。参加しながら感じることは、学校と地域が密になることは、子どもだけでなく、子どもの保護者である若いお母さんやお父さんたちが地域活動に参加するきっかけになり、それが街の活性化につながるのではないかとことです。大げさに言うと「地域のコミュニケーションセンター」のようなものに学校がなれるのではないかと、そういうことを学校としても大事にし、積極的に後援していきたいし、一緒に活動していきたいとおっしゃいます。



子供たちの知恵や力を増やすために

学校教育では、国語や算数などの基礎的な学力づくりが大きな柱となっています。一方で、子供たちが自分で考え生かすための知恵を増やしていくことも大切な目標となっています。

従来の、学校で学んだことや言われたことを、より正確に、より早く再現していくというテストや、受験のための教育だけではなく、本当に一人一人の子供が生きていくための生の知恵を身につけ、多くの選択肢の中から自分で判断していくという力をつけていくことが、これからの教育に求められています。子供たちが地域の方々とお話したり、大人も一緒に楽しんで、自分の生き方として活動している姿を見て、実際に学校で教わったことが、生活の中でどんなふうになかされているのかを知ることになり、その経験が子供の知恵や力を増やしていくことになるとおっしゃいます。その結果、それがまた学校で生かされ、学校で学ぶことに自信を持てるようになっていくことを期待されています。そのような機会をつくるのが「地域学校」だと結ばれました。

学校全体の取り組みとしては、まだまだ具体的ではないにしても、校長先生の子供たちや地域に対するお考えは、防災や防犯、「防災ひろば」の利用の点からも、街と一緒に広がっていくことでしょう。池二小と一緒に、地域の中で活動する学校になることが期待されます。

（取材：舟久保・内藤・青山）

池袋本町
防災まちづくり

ニュース
no. 24

発行：池袋本町防災まちづくりの会
豊島区まちづくり推進課
問い合わせ先：
（財）豊島区街づくり公社
TEL 03-3981-4732
編集協力：（株）防災&都市づくり計画室

2002年1月17日発行

本町防災ひろば 本格利用の提案まとまる

アンケートの結果をふまえて

本町防災ひろばの会では、前号の防災まちづくりニュースで、暫定利用中の本町防災ひろばにできる新しい公園の案について、アンケートでご意見を伺いました。（その結果については3頁をご覧ください。）

アンケートでは、3つの案の中の、自然系公園案とはらっぱ系公園案への意向が高いことが判りました。また、ほしい施設と不必要な施設については、はっきりとした傾向をつかむことができました。

自然系+はらっぱ系

会では、アンケート調査の結果をふまえて自然系公園とはらっぱ系公園を合わせた公園の案を作りました。また、このはらっぱではサッカーや野球（硬いボールは不可）などの練習も出来るようにして、スポーツ系公園の要素も入れています。案の詳細は2頁をご覧ください。

懇談会を開催します

会では、この計画案をもとに、地元の皆さんとお話する場をつくりたい。なるべくいろいろな世代の方においでいただくために、平日の夜

本町防災ひろば 本格利用についての懇談会

日時 ①2月2日（土）14:00～16:00
②2月6日（水）19:00～21:00
場所 池袋本町第二区民集会所（リサイクルルーム2階）

と土曜日の日中の、2回に分けて行います。お忙しい時期とは思いますが、ご出席いただきご意見をお聞かせください。

なお、懇談会には参加できなくとも、資料を見たい方やご意見をおっしゃりたい方は、街づくり公社にご連絡いただければ、後日資料をお届けします。（申込みは（財）豊島区街づくり公社 TEL 03-3981-4732まで）

計画案は区に提言

懇談会で皆さんのご意見を伺ったあと、必要に応じて案の修正を行い、会では3月中に豊島区長に対して計画案の提言を行います。

つれづれに一言

今年もまた、一月十七日がやってきます。七年前の未曾有の大惨事は直接被害に遭われた人々はもとより、全国の人々に物理的、精神的に大きな傷跡として今なお引き摺られております。大惨事の発生に伴い、様々な問題、例えば防災体制、危機管理、ケアであるとか、いろいろな面から語られております。しかしこうした不測の事態に対応するは言うことは、日常生活に常に緊張感と膨大なエネルギーを要する問題でもあります。衝撃的な写真や研ぎ澄まされた言語による報道は災害の悲惨さを如実に物語っておりますが、七年目の今日、もう一度冷静に考え、地道ではありますが、日頃からの協調性や、ユーモア、互助の精神など、人間の感性に密着した防災とは如何なるものであるか考えて見る必要があると思えます。このことは決してハードの面を軽視しているのではなく、あの惨事を風化させることではないと思えます。（浜田辰夫）

こんな場合どうしますか？：地震で自宅は大丈夫でしたが、電気・ガス・水道が使えません。お宅の冷蔵庫や食器棚などにある食料で何日くらい食べられますか？

冷蔵庫が使えないので、冷凍食品を保冷材にして、日持ちのしないものから先に食べて、水が足りなければ、ペットボトルのウーロン茶などを代用して、以前に紹介した空き缶コンロやカセットコンロなどを使って調理すると…、さながら自宅でキャンプですね。このような献立を考えてみるのも災害への備えのひとつです。（防災ネットワークプラン 井上浩一）